



ふがれすの活動について

鼻ぺちゃ犬をレスキューすること

ふがふがれすきゅークラブ通称「ふがれす」の母体は全国のパグ仲間の集まった「ぱぐ仙人ML」というメーリングリストです。

2002年頃からレスキュー活動をスタートし、2004年にふがふがれすきゅークラブという名前で正式に活動を始めました。

当時、海外では犬種別レスキュー活動が認知度を高めはじめた一方、日本ではまだ知る方も少なく、理解していただけないこともありました。しかし、「犬」と一口に言っても犬種によって、それぞれの特徴やリスクがあります。

パグは愛嬌があり明るい性格の子が多いですが、マズルの長い犬種とは比べ物にならないほど暑さに弱いことをはじめ、皮膚病や眼病などの健康リスクも併せ持ちます。

こういったパグの性質を理解しているボランティアによる活動は、その犬種に最適な対応ができるという意義があります。また、里親を希望する方とのミスマッチングが

減り、大量の保護犬を抱える大規模な保護団体の負担の軽減にも繋がります。

すべての犬を保護できない以上、できることは何かを精査する必要がありました。同時に、だからこそ知識がある犬種であるパグについては、その子の状態を理由に見捨てることはありません。

その後、同じ短吻種であるフレンチブルドッグやボストンテリア等、パグ以外の犬種の保護要請にも応え、1000頭近くの卒業犬を新しい家族と繋いできました。

活動当初と比べると、保護犬という言葉はより一般的に知られるようになり、他犬種にも犬種別レスキューが増えてきました。これらを喜ばしいことと考えています。

その一方、ペットブームの影に不幸になる犬の存在があり、保護活動はまだまだ必要とされています。わたし達は必要とされる限り、この活動を継続していこうと考えています。

小さな命を守るために。ご協力をお願いします

ボランティアに参加する

ふがれすの活動趣旨に賛同し、一緒に活動したいメンバーを募集しています。保護犬を里親さんに送り出すまでの間お世話をする預かりボランティアは慢性的に不足しています。その他、搬送ボランティアやイベント・フリマのお手伝いなどもあります。

支援金で保護活動に参加する

保護犬の引受を無償で行うふがれすの活動資金はイベントやフリマ、チャリティカレンダーやグッズの収益のほか、支援者の皆さまからの寄付金も大きな助けです。イベント会場での寄付や、1回の寄付、継続寄付も行っています。

支援物資で保護活動に参加する

生きていくために様々なものが必要なのは鼻ぺちゃ犬たちも人と同じです。フードやトイレシートやお手入れ用品などなど。実際に物資を送っていただくほかAmazonの欲しいものリストもあります。ぜひご支援ください。



愛犬が保護犬になってしまう理由はさまざまです。

その責任はどれも、犬によるものではなく人間側の勝手な理由です。

もし保健所に連れて行かれたら…？

言葉を持たない彼らはどうなるのでしょうか

保護犬について知っておきたいこと

保護犬たちはどこから来るの？

大きく分けると、家庭あるいはブリーダーからの放棄があります。

ペットとして暮らしていた犬がやむをえない、あるいは人間の勝手な事情で飼育放棄されるパターンなどです。ブリーダーからの放棄は①繁殖引退犬②持病・障害のある子犬③犬種スタンダードに合わず商品にならなかった犬などのケースがあります。

ふがれすのは、直接の引取り依頼があれば、他団体から該当犬種の引取りを要請されることもあります。保護依頼があった場合はできるだけ早くボランティアが引き受けに行き、病院での健康チェック、預かりボランティアへの引き継ぎが行われます。

ふがれすがレスキュー後に行うこと

■ 保護犬の健康チェック / 去勢・避妊手術

保護犬を引き取ったら、血液検査や触診排泄物の検査といった一般的な診察と去勢または避妊手術を行います。

■ 保護犬の里親探し

一時預かりボランティアの自宅で家庭犬としての経験を積み、それぞれの個性が見えてきた時点で里親募集を始めます。個性を含めて募集することで里親さんとのミスマッチはほとんどありません。

もし保健所から引き出せなかったら？

保健所に持ち込まれた動物の収容期間は自治体によって違いますが多くの場合は1週間から10日程度。迷子なら元の飼主が現れた場合には返還されます。そして元の飼主が現われず、新しい飼主もみつからなかった場合は致死処分となるのです。環境省の報告によれば2021年度保健所の犬の引き取りは全国で27,635件、そのうち致死処分は4,059頭(約14.6%)です。保護団体はそうなる前にレスキューをします。

保護犬・殺処分を増やさないために

ペットショップで買わないというチョイス

保護犬の里親になることは、確実に殺処分を減らすことができます。また、買うという選択肢の中にも「陳列販売をする店で買わない」「悪徳ブリーダーから買わない」ということなどがあることを知っていくことが重要です。

ボランティアをする

預かりボランティアをするほか、犬の搬送やイベントのお手伝いなど、できることがたくさんあります。

保護団体を支援する

寄付のほか、Amazonほしい物リストやオリジナルグッズ販売などで、気軽にご支援いただける工夫をしています。とても励みになっています。